

令和3年度第3回出雲市スポーツ振興審議会 議事録

1. 開催日時 令和3年8月27日（金）10:00～11:20

2. 開催場所 出雲市役所3階 市民応接室

3. 出席者

（委員）

会長	成相 善美	（出雲市体育協会会長）
副会長	安喰 公美	（レクリエーションスポーツ代表）
委員	青木 敏章	（出雲市体育協会副会長）
	大森 正義	（出雲市スポーツ少年団本部長）
	久家 彰	（出雲市生涯学習委員）
	佐々木 由紀子	（出雲市スポーツ推進委員）
	水津 則義	（島根県高等学校体育連盟副会長）
	手銭 俊夫	（出雲市小学校体育連盟会長）
	野津 修一	（出雲市身障者福祉協会副会長）
	寺本 淳一	（出雲市議会スポーツ推進協議会会長）
	藤江 勲	（出雲中学校体育連盟会長）
	三島 武司	（出雲市教育委員会副教育長）

（12名）

※欠席者3名（天根佑介委員、矢田栄子委員、山根千恵美委員）

（事務局）

三代 均	（市民文化部長）
矢田 和則	（文化スポーツ課長）
今岡 正樹	（文化スポーツ課課長補佐）
原 彩恵子	（文化スポーツ課スポーツ振興係副主任）
小村 修平	（文化スポーツ課スポーツ振興係主事）

（5名）

4. 会議内容

（1）成相会長挨拶

おはようございます。お出かけにくいところお出かけいただきありがとうございます。新型コロナウイルスが少しでも終息してくれればいいなと思いつつも一向に収まることなく、個人的に心が揺らいだりしていたが、パラリンピックがあったり、甲子園があったり、選手が活躍するのを見ると元気づけられ、また自分がウォーキングした後の軽く汗をかいた爽快感など、スポーツの良さをつくづく感じている。

このたび、出雲商業高校の水津委員にはお世話になり、生徒の皆さんとのワークショップをしていただいた。後程、そのことについてお話しいただくが、皆様方の協力によりいろいろと進めていくことができていること、感謝する。今日は皆様の忌憚ない意見をいただき進めていけたらと思っているので、よろしく願います。

(2) 議事

議事① 高校生によるワークショップの結果について

(成相会長)

高校生によるワークショップの結果について、文化スポーツ課から説明をお願いする。

(事務局：小村主事)

高校生によるワークショップの結果（資料1）について説明

(成相会長)

今回のワークショップの開催については、出雲商業高校校長の水津委員に大変お世話になった。ありがとうございました。水津委員から感想をお願いする。

(水津委員)

今回は貴重な機会をいただいた。生徒は、出雲市のスポーツ振興という視点を持つことは初めてであり、意見が出るか心配もしていたが、子どもたちの視点でこうしているのかと感じたところである。

特にグループ③の「親だってスポーツがしたい」という提案について、生徒が自分の保護者を見ていて、スポ少の引率などをしてもらっているが、体が動く時期に、親のスポーツの機会を奪っているのではないかと、という視点があることも感じた。

また、ある生徒からは、自分は小さい時からバスケットをやってきたが、バスケットのことは知らないのと、今思うと、小さいときにいろいろなスポーツに触れる機会が出雲市全体としてあれば、スポーツをやることに対する視野がもう少し広がったのではないかと話もあった。そういう意見も子どもながらに持っているのだと思った。

まだまだ高校生なので稚拙な意見もあるが、参考にさせていただけたらと思う。貴重な機会をいただきありがとうございました。

(成相会長)

それでは、高校生によるワークショップの結果について説明があつたが、委員の皆様から、質問・意見等があれば挙手のうえ発言をお願いする。

(青木委員)

第1回で、若い世代からの意見を聞くという話が出て、実行に移してまとめられたことは素晴らしいことだと思う。計画には、幅広い年代、特に次の時代を担っていく年代の人たちの考えを入れていかないと、未来のものは作れないのではないかと話だったので、新しく入れることでなくても、ぜひ、子どもたちが考えていることが発信できる計画になるといいと思う。もっと幅広く経験できるようなそういうものを作るということがあるといいなと思っている。

(安喰副会長)

感想だが、小さいときからいろいろなスポーツに触れるという話があつたが、私も同じように思っていたので、今の高校生もそういう風に考えていると思って感動した。今の子どもたち、小学校の低学年、就学前の子ども親がどういう考えであるかというアンケートはないか。

(事務局：今岡補佐)

アンケートは今まで示したもののみである。

(安喰副会長)

今、スポーツをしたいが子どもがいてできないという貴重な意見が出たので、そういうところも取って見たらどうかと思った。

(久家委員)

水津委員の話の中にあっただが、子どもたちが他の種目もいろいろやってみたいと、子どものときに感じていたと。コロナ影響でここ2年間開催できていないが、実際、スポーツ少年団が主体のスポーツ好きっ子事業で、スポーツ少年団に入団していない子どもを対象にスポーツをやろうということで、年間を通して5種目くらいやっているが、親が会場の送迎をするのに非常に負担があるようだ。平田会場と浜山会場でやっているが、年間、平田が15人～20人くらいで、浜山は30人くらいである。子どもがやりたいと思ってもできない、あるいは西部、多伎や湖陵のほうは送迎の関係があって、なかなか入れないということもある。

また、親が運動していないというのはデータに現れていて、スポーツ推進委員が体力測定をしてみると、30歳代の女性の体力が非常に低く、運動を全然やっていない。親が忙しくて自分自身が運動する時間が取れないというのが現状で、データ上では悪い状態が出ている。スポーツ推進委員では、ファミリー体力測定というのを測定員の資格を取ってやっているが、親子で一緒に、運動をするきっかけづくりにしてもらえれば、またそのデータを家族で話し合ってもらえればということをや2年前から展開をしている。そういう形はスポーツ推進委員としては継続してやっていきたいと思っている。そういう機会があったらお願いすることもあるかと思うので、よろしく願います。

(成相会長)

親は子どもの送迎で、一緒に体育づくりができるようなことができれば良い。大会に向かって一生懸命練習を行うミニバスケの練習風景を見ていたが、親が子どもたちを見守りながら、送り迎えをされている。大会までの準備も大変だろうなと思いつつ見えていたが、見ているだけで一緒になってやることはなかなかない。

他に何か意見があるか。

(手銭委員)

高校生のワークショップは年度初めに計画されたものでなく、審議会の中で発案があり直近で決まったことだが、それにもかかわらず、こうやって高校生の意見を吸い上げる実践がされて非常に意義ある会議になると思った。次世代の子どもたちが出された意見について、単なる意見の吸い上げでなく、実現の方向に向かうように我々も努力することが必要かなと思った。

例えば海士町の子ども議会で、何とか1つでも実現に結び付けるためにいろいろな組織が連携して取り組むということもされていたので、我々もそのように進められたらと思った。

もう一つ、高校生も、施設を作る、新しくする、また教室を作るなどハード面には目が行くとは思う。一方で、スポーツ推進委員の育成など、ソフトの面は、行政

と既存の団体が連携し、ハードとソフトが絡み合えば実現もできるのではなかと思う。今、お金がない中で新しい施設を建てるとするのは難しいと思う。武道館が市内の中心にあっても、多伎など遠くのほうからは行きにくい。各地区にある学校、例えば、多伎小学校も特定の団体の使用のみ社会教育施設として開放しているが、もっと違う世代や内容に結び付けられるような施設開放ができれば、お金もさほどいらずに、子どもたちの意見に結び付けられるような取り組みができるのではないかと思った。

(藤江委員)

先ほど水津委員の話で、バスケットの話が出たが、私も感覚的に同じである。中学校に入ると部活動があり、運動部活動を選ぶ生徒も多い。少なくとも出雲第3中学校では、部活動において、平日は1日、土日は1日休みを設けているが、それ以外の日は部活動をやっている。実際にはその競技だけではなく、他の競技をやりたいとか、能力がある子もいると思うが、部活動に入部すると、その競技に特化した練習や試合が主になる。休日の部活動が休みの日には他の競技をすとか、趣味で生涯スポーツをやってみるといいうのもありかなと思うが、生徒たちも忙しい中でやっているので、休日には休養したいといいうのもある。部活動で成果をだすということもだが、休養日も設けながら、他のやりたい競技も誘われればやってみようかなというゆとりができればいいなと思う。

(成相会長)

学校の体育館について手銭委員がおっしゃったが、体協の関係でいうと、旧体育館もなくなったりして使える施設が無いということで、困っているところがたくさんある。もし各地区にある学校の体育館が使えるようになれば、各地区でいろいろなことができ、また、子どもたちもそういう活動を見ることによって、いろいろな興味とかやってみたいものに繋がれば、かなり良いのではないかと思うこともある。これは私の意見だが、コロナ禍ではあるが、そのような形でいろいろスポーツに関わっている人たちが体育館を借りられるようになれば、大きな効果が出てくるのではないかと思う。

議事② 新計画の体系(案)について

(成相会長)

続いて、議題2の新計画の体系(案)について文化スポーツ課から説明をお願いします。

(事務局：今岡補佐)

新計画の体系(案)(資料2)について説明

(成相会長)

ただいま事務局から、新計画の体系(案)について説明があったが、御意見を頂き新計画(案)に反映させたいと思う。

委員の皆様から、質問・意見等があれば挙手のうえ発言をお願いします。

(三島委員)

まず1点目だが、新計画は5か年計画だが、基本目標「1 スポーツがあふれるまちづくり」、基本方針「(3)各種スポーツ大会」の基本施策「③2020東京オリンピック・パラリンピックのレガシー大会の開催」というのは、5年間は絶対にやめないという決意があるのか。これはなくても良いのではないか。数を増やしていくというようなことであれば、挙げるべきだが、その時々ニーズによって対応するべきであると思う。先にある大会を目指すというのはわかるが、レガシーはいらぬのではないかという気がしている。

もう1点、基本方針「(2)共生社会実現に向けたスポーツ活動の推進」、基本方針「②多様性を認め合うスポーツ活動の推進」について、多様性についてはいろいろな意見が出ており、多様性というのはそれぞれとらえ方が全然違うと思う。意見の中でもスポーツの多様性であったり、年齢にかかわらずということであったり、もう少し言葉を添えたほうが良いのではないかと思う。一般的に多様性というと、LGBTをイメージするケースが多いため、もう少し丁寧に言葉を添えられたほうが良いと思う。

(青木委員)

書き表し方の話だが、基本目標「1 スポーツがあふれるまちづくり」、基本方針「(1)ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」の基本施策の「②青少年期のスポーツ活動の推進」について、小学生と中高生が違うのではないかということ②の中で2つにわけてあるが、②が2つあるというのは書くときに不都合があるのではないかと思うので、「②青少年前期のスポーツ活動の推進」と「③青少年後期のスポーツ活動の推進」としたほうが良いと思うがいかがか。

(事務局：今岡補佐)

ありがとうございます。参考にさせていただきます。

(野津委員)

計画に入れるかどうかかわからないが、小さい子どもにあまり投げさせたらいけないなど、医療的なものとの連携はないのか。出雲市にスポーツ医学の分野があるかわからないが、体的なところからスポーツをとらえる面もあったほうが、子どもたちの体的には良いのではないかと思う。医療との連携みたいなのがあれば。

(手銭委員)

基本目標「1 スポーツがあふれるまちづくり」というのがあって、その中に、これからは情報発信の時代ということで、基本方針「(3)各種スポーツ大会の充実」、基本施策「④各種スポーツ大会の情報発信」にSNS等を活用、基本方針「(4)スポーツツーリズムの推進」に基本施策「③スポーツイベントの情報発信」とある。また。基本目標「3 スポーツを支えるネットワークづくり」、基本方針「(1)スポーツ環境の充実」に基本施策「③デジタル技術活用の推進」とあり、施設の予約など情報が無いと施設の貸し借りも難しいだろうと思っている。これからは情報発信、情報活用は施策の大きな柱として1つ項目を単独で起こすくらいの重要性があるのではないかと感じた。具体的な施策の中で、SNS等と朱書きであるが、若い世代では、SNSで情報が一気に広がる。それによって企業の売り上げも格段に違ってくるなど左右しそうな気がする。これは思い付きだが、最近コンビニと高校生がコ

ラボしたりタイアップしたりして、スイーツなどの新商品を販売している。せっかく出雲商業高校さんがおられるため、SNSの情報を商業高校の情報処理の過程の方など、あるいは野球部やサッカー一部とか、ライセンスを与えながら、野球の魅力や大会の情報を発信してもらうなど、高校生と一緒にする情報発信のあり方は、お金もいらぬし、子どもたちの将来の卒業以降も関わられるようなところでいいのかなと思ったり、情報発信というところも重要だと思う。

(成相会長)

SNSは本当にすごくて、自社の中でも、専属で情報発信をしている。若い人たちはテレビよりもSNSを見ているほうが多く、有効な手段だと思う。

(藤江委員)

スポーツと直接ではないが、先ほど医療のことを言われたが、スポーツ栄養学というのか、競技力は向上したり技術的なことを指導したり学んだりしているが、結構児童生徒は、食育の面とかバランスの面とか生活習慣もそうだが、かなり偏った生活を送っている。青年期というのは体作りも土台になるため、直接スポーツということではないが、関係機関との連携のところで、せっかく県立大学に専門科もあるので、スポーツ栄養学のようなもの、青年期における食育とか、そういったところも指導とかアドバイスとかいただけるといいかなと思っている。

(成相会長)

食育はずっとやってきて、今、コンビニの弁当でも、ご飯とウインナーだけのものがすごく売れているとかで、栄養バランスは関係なくて、子どもたちがこれがいいと言い、安くてウインナーが入っているからという感じで食べている。バランスという面では、体のことを考えて売れているものは少ないので、県立大学さんはそういった部分はすごくバックアップしてくださると思うので、それは本当に重要なことじゃないかと思う。バランスのとれた食事、スポーツ栄養というか、そういうことも必要かなと思う。

(安喰副会長)

今、体が成長した中学校、高校の話だが、保育園、幼稚園の話も出たので、先ほど野津委員さんが言われた、医療プラス発達ということがあっていいのではないかと思う。幼稚園なんかで未発達の部分があるのに、無理にさせたらいけないということがあると思う。このプロジェクトのメンバーの中にはいないが、医療関係、スポーツ医療というのの中に、発達という言葉も入ってくると思うが、それを重視しないといけないかなと思う。

(成相会長)

他に何かあるか。これについてはよろしいか。本日用意された議題は以上であるが、全体について意見があれば願います。

(青木委員)

言うか言わないか迷ったが、スポーツ基本計画の中に、スポーツの定義のことが書いてあって、スポーツで人生が変わると書いてあるところに、競い合い挑戦するものや、健康維持や仲間との交流など多様な目的であるというのが書いてあるが、

いわゆる競技スポーツとかそれ以外と書いてあるが、本質は、楽しむということだ
と思う。その楽しむということを考えてときに、各年代が何が一番楽しいかという
ことを考えていく、そういうことができるような出雲市のスポーツの計画であるこ
とが必要でないかなと思っている。特に抜け落ちている世代というのが、そんなに
競技をどうだこうだとか、健康増進はあるかもしれないが、やはり楽しいというこ
とを目指す、そういうのが出雲市の中に必要でないかと思う。

（三島委員）

私も全面的にそう思う。部活動にしても何にしても、できる子だけのスポーツで
はなくて、勝ち抜いて全国で勝負できる子を育てることも大事かもしれないが、勝
ち抜けない子のほうが圧倒的に多く、いわゆるエリートアスリートを育成するとい
うことも大切なことかもしれないが、市がやる計画である以上は、青木委員がおっ
しゃったように、そういったスポーツをすることをみんなが楽しめるいうところを
まず第一に考えていく必要があると思う。

（成相会長）

確かにそういうのもすごくある。突き詰めていくと自分自身にプレッシャーをか
けて、どんどんハイレベルなところを狙っていくようになると、どこかでポンと折
れてしまって、例えばサッカーやっていて、目標を高く持っていたものが、自分で
どんどんプレッシャーをかけていってしまって、途中で折れてしまう。中
学から大学まで期待だけを受けて、それが楽しいのではなく、苦しさに代わってし
まうという部分があったりする。楽しんで、伸びるときにどんと伸びて行くような、
アスリートであればそうであるし、そこまでいかななくても、チームの一員として楽
しんでやるということも大事じゃないかなと思う。それは一番に考えていかなけれ
ばいけないことかと思う。

（事務局：今岡補佐）

情報発信ということをもう少し取り上げたらどうかという話があった。基本目標
「3スポーツを支えるネットワークづくり」、基本方針「(1)スポーツ環境の充実」
の③にデジタル技術活用の推進とする案を示しているが、基本方針まで上げたらど
うかということか。

（事務局：矢田課長）

基本方針の中に情報発信について設けてみたらどうかという意見をいただいた
ので、どういう形で入れ込んだほうが良いか、意見をいただきたい。

（三島委員）

基本目標「3スポーツを支えるネットワークづくり」の中の基本方針に(3)として
設けたら良いのではないかな。基本方針の中に設けるとしたら、その辺りかなと思う。
デジタル技術活用とか情報発信とか、それ以外に持っていく項目がないのではない
かと思う。

（事務局：矢田課長）

基本目標「3スポーツを支えるネットワークづくり」の中の基本方針のところに、
デジタル推進、情報発信というような項目で、提案があったように盛り込むという

イメージで良いか。

(成相会長)

その方向でよろしいか。

(全委員)

—了承—

(成相会長)

他に意見がないようなので、本日いろいろ意見をいただいたが、また何か御意見があれば、事務局へ電話やFAXをお願いします。

それでは事務局へお返すする。

(3) その他

(事務局：今岡補佐)

スケジュールのとおり、次回は10月を予定している、1か月前くらいに日程調整票を送付する予定なので、その際は協力をお願いします。

(事務局：矢田課長)

貴重な意見をありがとうございました。

以上で第3回出雲市スポーツ振興審議会を終了する。

本日はありがとうございました。